

JAいわて平泉 コミュニティ紙 2014秋 第6号

そ~じゃ*い~じゃ

So~JA*E~JA

消費者×生産者×地域×JAをつなぐコミュニティ

田んぼはぼくらの学校だ!



平泉町立平泉小学校の5年生

は、今年度からお米についてJAと共同で

授業を行っています。JA平泉青年部の指導により、

春の田植えに始まり、田んぼでの生きもの調査、草とり作業、か

かし作りを通して、農業の大変さや、田んぼが地域を潤し、美しい生態系

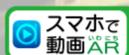
を育てていることを学びました。ずっと見てきた、自分たちの田んぼ。

秋には、黄金色の穂が立派に実りました。子どもたちは丁寧に、そして

うれしい気持ちで稲刈りを行います。子どもたちは、1年間、お米づく

りを通して感じたことを作文にし、第39回「ごはん・お米とわたし作

文・図画コンクール」に応募しました。



「App Store」または「Google Play (Playストア)」から専用アプリ「marcs (マークス)」をダウンロード(無料)します。アプリ起動後、写真にかざすと動画が見られます。

「App Store」または「Google Play (Playストア)」から専用アプリ「marcs (マークス)」をダウンロード(無料)します。アプリ起動後、写真にかざすと動画が見られます。

〈動画配信期間 H.26.11.2 ~ 12.1〉

※一部端末では正常に動作しない場合がございます。

JAいわて平泉

いわて平泉農業協同組合
〒021-0027 岩手県一関市竹山町7-1 ☎0191-23-3006(代)



一関市立永井小学校
2年 佐藤 柚香さん
妹と私の二人で、おにぎりを食べている部分を一番頑張った描きました。お米は大好きなおじいちゃんを作ってくれています。

最優秀賞
おじいちゃんのお米は
おいしいな

第39回「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール両磐地区JA審査会



J Aグループは「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、「ごはん・お米とわたし作文・図画コンクール」を実施しています。これからの食・農を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作り上げてきた稲作農業全般についての学びを深めてもらうことが狙いです。

子どもたちが、毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米についての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現しています。

今回は、J Aいわて平泉管内で応募のあった作品の中から入賞作品と受賞者の皆さんをご紹介します。



最優秀賞
小学生の部
家族で楽しく
米づくり

一関市立室根東小学校
3年 小野寺 蓮さん



みんなで作ったお米でごはんを食べることが、ぼくの楽しい瞬間です。サッカーや柔道、水泳などのスポーツをやっているのって、いっぱいごはんを食べたいです。

今年の春のことです。毎年行われている田植えを家族全員で行いました。ぼくの仕事は、田植えの上のせた、なえぼこをプランで「コンコン」とです。水をかけながらプランで「コンコン」とすり、なえぼこについた土やよごれをおとします。よごれがなくなかちゅうになつていて、いつの間にか四時間ぐらいたってしまいました。あらったなえぼこの数は全部で五十まいでした。家の人たちから「よぐんぼったね。えらいえらい」とほめられました。

一ヶ月ぐらいたって、田んぼに行くと、イネは、うえた時と同じくらいでした。イネがそだつには、ずいぶん時間がかかることがわかりました。夏休みが終わり、また田んぼに行きました。もうイネはみのついで、みどり色から黄みどり色にかわってしまいました。ぼくは、もう少しかなあと思いました。

きよ年のいねかりのことを思い出しました。かったイネを太陽にほすためにイネをかけるのです。イネをかける仕事は、おいしいお米になるのに、大切な仕事です。ぼくは、その仕事が好きで、たくさん手伝いをしました。ほしたイネは、うんぼん車にのせてはこぶのも手つだいでした。イネかりの仕事が、今からまたおもしろいです。

今年も、一つ楽しみなことが出来ました。それは、ぼくがよりよくなることです。米をあらってごはんをたくこと。そして、おにぎりを作ったり、カレーにして食べるのです。新米でたいたごはんは、とてもおいしいです。

家族全員で田植えをし、イネかりをして、みんなでつくったお米でごはんを食べること。それがぼくの、楽しいしゅんかんです。

最優秀賞
中学生の部
幸せの味

一関第一高等学校附属中学校
3年 佐藤 友香さん



生まれてからずっと食べてきたので、一番身近な存在のお米が、私から遠ざかったことが印象に残っていて、題にしました。改めてお米の大切さ、自分がお米が大好きだということを考えることができました。

私の周りには、手足が細長く、全体的に身体がほっそりとした、ともスティルの子のいい人たちがたくさんいます。小学生の時は、太るとかスティルが嫌なると、といったことを大し気にせず生活していた。しかし、この頃、そのスティルのいい人たちがとてお米やましく思うようになった。私は中学校で共に入塾したのだ。自分の、思春期に入学したのだ。自分の崩れた体型は、周りから思われていたのだから、私も雑誌のモデルのように細くなりたい。そういう思いが日に日に強くなり、私はついにダイエットをする決心をした。

決心したものの、私には初めての事だった。どのようにすればいいかわからなかった。そこで、本やインターネットでダイエットについて調べてみた。そして、そこには共通して、炭水化物を摂取しないようにすることと、私には一番「お米」を思い浮かべた。お米が大好きだったため、これを見た時は、少なからず衝撃を受けた。しかし、ダイエットをする決心したからには、必ずやらなければならない。私には出来る自分自身を励ましなが、実行に移した。

翌日から私は、お米を一切食べないようにした。ダイエットをする事秘蔵にしてきたため、家族のすきをみて、お米を炊飯器に戻す、ということ朝と夜は行った。そして、昼のお弁当のお米は、友達に食べてもらった。それが不可能な時は、残すようになった。毎日お米のようにして過ごしていくと、体重は少しずつ減っていった。だが、そのことを嬉しく思う自分、手間をかけて作ってくれたご飯を残すことへの罪悪感を感じている自分がいた。もうやめてしまおうか」とも考えたが、一度決めたことはしっかりとやらなければならない。という使命感に苛まれ、ストレスを感じるようになった。

ある日、突然母が私に「あなた、最近顔色が悪いわよ」と言った。図星だった。お米を食べないようになってから、頭痛がしたり、気怠さを感じたりしていた。そのうえ、ストレスで肌が荒れるようになった。そしてその事でもた悩む、という悪循環が生まれるのだ。もうどうすればいいのだろうか、とずっと思っていた。最近お米を食べていないで、知ってるのよ。お米には、大切な栄養がたくさん含まれている。それを摂取しない、体調が悪くなってしまふ。もう、お米を食べなさい」と悟すように言った。最初は、何故知っているの、と思った。いつもこうなのだ。母は私のことを何も知らない。かといって結局は知っていて、母には敵わない。そして次に、お米を食べよう、と思った。もう我慢したり、ストレスを感じたりするのは疲れてしまった。頭痛や気怠さを感じるのは、もう嫌になってしまった。お米を食べて、すっきりとした心が、噂のうらに軽くなった。私は自然とお米を食べていた。

私は、家に帰ってすぐに炊きたてのお米を口にいっぱい含んだ。噛みしめる度に、ほんのりと甘く、もちもちとした歯ごたえがあり、私を包み込んでくれる感じがした。これほどまでにお米は美味しかったのか、と驚いた。まるで幸せの味。気がつく、私のお米を口まで運ぶ手は止まらなくなった。夢中になって食べていた。こんなに美味しいものを、何故食べないようになってしまったのだらうか強くなった。これで良かったのだ。私は「お米が大好きな少女」に戻るのだ。そんな私を見ていた母は、嬉しそうに、「お米を食べて、すっきりとした心、いっぱい食べているあなたが一番素敵だよ。お母に敵わない。」



優良賞
お米を食べよう



一関市立赤荻小学校
3年 佐藤 杏佳さん
田植えをしたことがあって、お米を作っている農家さんに「ありがとう」の気持ちでごはんを食べているところを描きました。



優秀賞
おかわりありがとう



一関市立一関小学校
3年 小野寺 優花さん
離れて暮らしているおばあちゃんとはんを一緒に食べている様子を描きました。ごはんが大好きです。

作文部門
平泉町立平泉小学校

学校賞
両校は、第39回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール応募において積極的に取り組み、多くの作品を出品していただきました。

図画部門
岩手県立一関清明支援学校
千厩分教室 中学部

平泉町立平泉小学校 藤原 勝守 校長
コンクールへの挑戦は、子供たちの自主性に任せています。J Aいわて平泉さんの支援をいただきながら学習している米作りを通して、農業や食に興味や関心を高め、家族の話題にしたり、一人で調べたりしていることをうれしく思います。



岩手県立一関清明支援学校 菅原 敬子 校長
子どもたちはみんな残さず給食を食べるほど、ごはんが大好きです。賞をいただいたことで、自分たちの自信にもなりますし、チャレンジしようという気持ちにもなります。



図画審査員：
一関市立萩荘幼稚園 園長
及川 武芳 氏

最優秀賞の佐藤さんの作品は、画面を大きく捉えてほのぼのとして自分が楽しいという情景が伝わってくる作品でした。皆さんいろんな発想をしており、一生懸命に工夫してアイデアを出そうという真面目さが感じられました。食・農・人との関わりなどを考えたり、深く見つめたりすることは貴重であり、今後も一貫したカタチで継続してほしい企画だと思います。



作文審査員：
岩手日日新聞社 編集局長
小岩 聖二 氏

小学生の作文からは、体験活動や農作業の手伝いを通じて学んだ、米作りの難しさや楽しさに加え、愛情を注ぎながら手塩にかけて農作業に励む祖父母をはじめ、多くの農家の人々への感謝の思いが伝わりました。中学生の作文には、米

中心の食卓を囲む家族だんらんの姿や日本人の健康づくりに欠かすことのできない米の重要性など、何気ない日常生活の中から表現した素晴らしい作品が目立ちました。

しっかりと受け答えができる知識を

JAいわて平泉 園芸課 菅原

とある 徹さん(25)

未来を担う JAの笑顔



2年間、JAの園芸センターで臨時職員として経験を積んだ菅原徹さん。今年から正職員として園芸課でシイタケとミニトマトを担当しています。「作業員から営農指導員という立場になったので戸惑いはありますが、できるだけ生産者を巡回するなどして、しっかりと受け答えができる知識を身に付けたい」と意欲を示します。

小学3年生からはじめたソフトテニスでは、インターハイで2位になったことがある腕前の持ち主。「今はたまに市民大会などに出場する程度ですが、楽しんでテニスをしています」と笑顔を見せます。



JAいわて平泉 園芸課 太田 ひかるさん(21)

様々な面で

生産者のお手伝いができるように頑張ります

JAいわて平泉に今年入組した太田ひかるさんは、園芸課に所属し、ナス、ネギの担当として、営農指導等に当たっています。「悪い印象を与えないように、生産者さんと明るく接するように気をつけています」と笑顔。クリエイティブなことが好きで、趣味でアクセサリや雑貨を作ったり、パソコンでイラストを描いたりしているそうです。「これから経験を積んで、担当の品目以外の作物についてや、資金計画、資材の値段など、様々な面で生産者の皆さんにお世話ができるように頑張ります」と話すひかるさんです。

JAバンク岩手 ドリームキャンペーン 2014

今年もJAバンクでハッピーな冬になる! 《キャンペーン期間》平成26年11月4日(火)~平成26年12月30日(火)

※賞品の画像はイメージです。実際のものとは異なる場合がありますので、予めご了承ください。 ※賞品の交換・換金・返品等には応じかねますので、予めご了承ください。

先着プレゼント
期間中、新たに定期貯金、定期積金を10万円以上ご成約の方に先着でプレゼント!
カラフルトーン湯たんぽ
当JAでは1,800名様

ドリーム賞
期間中、新たに定期貯金、定期積金を10万円以上ご成約の方に抽選でいずれか1点プレゼント!
A 選べる県内温泉ペア宿泊券
B お茶プレッソ
C JAオリジナル賞品 いわて南牛
当JAでは6名様 8名様 30名様

ほんわか賞
期間中、新たに定期貯金、定期積金を50万円以上ご成約の方にどちらか1点もれなくプレゼント!
A ちよリスブランケット
B ちよんきよ円座布団

先着プレゼントについて
●新たに定期貯金または定期積金を10万円以上ご成約された方、ご継続の場合は10万円以上増額された方に先着順でカラフルトーン湯たんぽをプレゼントします。

ドリーム賞について
●新たに定期貯金または定期積金を10万円以上ご成約された方、ご継続の場合は10万円以上増額された方に抽選券を差し上げます。(増額のみが対象となります。)

ほんわか賞について
●新たに定期貯金または定期積金を50万円以上ご成約された方、ご継続の場合は50万円以上増額された方にちよんきよちよリスブランケットまたはちよんきよ円座布団をプレゼントします。

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。

りんご収穫感謝祭 開催のお知らせ

管内で収穫した品質・食味とも良好な、贈答用りんご(サンふじ、王林など)をはじめ、新米や野菜なども販売します。

日程および会場
11月23日(日) 午前10時~午後2時
JAいわて平泉 東部営農振興センター
12月7日(日) 午前10時~午後2時
JAいわて平泉 西部園芸センター

詳しい内容は JA園芸課まで
☎0191-23-9173または0191-75-3312



レストラン ペッタンくん

道の駅厳美溪内に店舗を構えるレストラン「ペッタンくん」は、一関に深く根付くもち文化をイメージして名付けられました。このお店の売りは店名からも分るとおり、さまざまな種類のお餅。お店の一番人気は8種類の一口サイズのお餅がいっぺんに楽しめる和風餅セット(税込880円)で、このうち1種類は季節限定の餅で、現在は「南部一郎かぼちゃ餅」を用意しています。その他にも毎月第4金曜日にはもちバイキング(12:00~14:00)も開催されており、売店にはお土産用の餅もあるので、一関の餅文化を濃厚に感じることができます。

その他にも一関の新ブランド豚「黄金こめ豚」を使用したチャーシューが乗ったチャーシュー麺(=写真:税込800円)や、地産地消のジェラートのお店、「ポラーノ」のソフトクリームも味わうことができ、ここだけで一関のさまざまな味も楽しむことができます。

一関市厳美町字沖野々220番地1 ☎0191(29)2000
営業 夏期(4月~10月末)10:30~17:00 冬期(11月~3月末)10:30~16:30
休 11月~2月:第3水曜日 3月~10月:無休



「黄金こめ豚」とは、

一関ミート自社農場(石川ファーム:一関萩荘)で平泉町長島の農アグリ平泉で栽培した飼料用米15%配合した「自家配合飼料」を与えて肥育した豚肉です。世界遺産「平泉」の黄金文化にちなみ名付けられました。脂身のうま味と口溶けの良さが特徴です。



チャーシュー麺(税込800円)

JAいわて平泉広報誌 KOSHERU こしえる
組合員向けに発行しておりますJAの広報誌「KOSHERU(こしえる)」は、JAホームページにてご覧いただけます。
http://ja-iwatehiraizumi.or.jp
E-mail:kosheru@ja-iwatehiraizumi.or.jp

読者アンケート
1 今号の「SO-JA*E-JA」でよかったと思うコーナーや感想
2 今後取り上げてほしい話題
3 JAに対する要望
応募方法
〒021-0027 一関市竹山町7-1 JAいわて平泉 総合企画課

お食事されたお客様に限り ソフトドリンクサービス
レストラン ペッタンくん
一関市厳美町字沖野々220番地1 ☎0191-29-2000
有効期限/2015年4月末まで